

令和6年度の学校運営に関する自己点検・自己評価結果について（評価レポート）

津看護専門学校

令和6年度の学校運営に関する様々な取組みについて、本校の自己点検・自己評価委員会により、9つのカテゴリー毎に整理した124項目の評価の視点をもとに「自己点検・自己評価」を実施しました。

評価は、点数制を用い、その尺度は、「当てはまる。（3点）」、「概ね当てはまる。（2点）」、「やや当てはまる。（1点）」、「当てはまらない（0点）」の4区分としました。

令和6年度の評価における「9つのカテゴリー」の「評点結果」及び「主要な評価の項目」と「評価の概要、課題等」は、次のとおりであり、前年度を上回る成果があったものが2カテゴリー、前年度と同程度の成果であったものが5カテゴリー、前年度の成果よりも下回ったものが2カテゴリーという結果となりました。

前年度の評点を下回った2カテゴリーについて、その理由は、令和6年度の退学者数が6名と、前年度の7名から減少したものの十分な改善が図れていないこと、教員の研究活動への参画者が当初計画の8割以上を満たさず、かつ、法人内の発表会に間に合わなかったことであり、今後、それらについて改善を図っていきたいと考えています。

は評価に当たった9つのカテゴリー

I 学校運営（評点：3.0）前年度評点：2.9

（1）年間目標の設定・管理

- ① 本校の教育理念を踏まえた教育目標に資する教育の方向性として「年間教育方針」を設定しており、年度末に教員会議で全教員により教育方針の結果・成果を検証するとともに、翌年度の内容を検討・共有しました。
- ② 1年間の結果・成果の検証においては、単に「できた、できなかった」として振り返るだけでなく、新たに取り組むべきこと、改善していくべきこと等について、しっかり議論しながら評価を行いました。

参考：年間教育方針の行動目標（代表的なもの）

- ・各教員が、教育課程の全体像を把握したうえで、科目間の調整を意識してマトリックスの確認を行いながら授業等を進める。
- ・学生の主体性（目的意識を持って自らで計画・実施できる能力）を育む指導・助言に注力する。
- ・退学や休学となる学生が一人でも少なくなるよう、学校生活全般の状況を把握しながら必要な指導・助言等を行うとともに、学力の低い学生に対して早い段階から学習方法の指導を行う。
- ・1年次からの計画的な国家試験対策を実施して全員合格を達成する。
- ・各教員が看護教員ラダーを踏まえた自己学習を計画的に実施していくとともに、教員間の授業批評の取組みや積極的な研修参加など、指導能力の向上に努める。

※看護教員ラダー：教員が段階的に能力向上していくための内容及びレベルを示すもの

（2）学校の独自性の創出

- ① 「少人数教育の実践」が本校の教育面の強み・特色であり、その維持・向上のために、次の取組みを実施しました。
 - ・各学年の担当教員を担任1名、副担任2名の3名体制とし、学生の学力や学生生活全般の態様に対応したきめ細かな指導・助言を実施
 - ・卒業や国家試験の合格が厳しい状況にある学生に対して、個別講義や個別演習を実施
 - ・3年生3名程度に1名の専任教員を割り当て、全教員により3年次の国家試験対策を実施（国家試験担当教員制）
- ② なお、令和6年度の看護師国家試験の結果においては、2年連続となる受験者全員（100%）合格を達成することができました。

（3）教員会議の効率的・効果的な運営

- ① 本校の年間教育方針や教育活動に関する諸計画の検討、それらの展開方法や諸課題への対応策等について、教員会議の場で全教員参加のもとに、しっかりと意見交換を行って決定しました。（会議開催頻度：2回～3回／月）
こうした取組みが、全教員の一体感の醸成と共通認識の徹底につながっています。
- ② 教員会議は、議論を深めていけるよう、十分な時間を確保するとともに、会議資料の事前配付を行うなど、効率的な運営に努めました。
- ③ 会議における議論や決定事項の内容については、教員が当番制で会議録を作成することにより、検討結果の継続性を確保しています。

II 教育課程・教育活動（評点：3.0）前年度評点：3.0

（1）教育活動に関する目標設定と達成結果の分析

- ① 各教員が個別に作成する教育目標については、本校の看護教員ラダーに基づく年間目標等を踏まえた目標を設定し、年度途中に進捗状況を確認しながら、年度末に結果の評価を行いました。評価に当たっては、副校長、教務主任と本人による三者面談を実施し、結果の共有を図っています。なお、本校の教育活動を推進・評価していくうえでの具体的な取組みは「別表1」のとおりです。

参 考：各教員の教育目標（主なもの）

- ・全ての学生が単位修得、卒業試験・国家試験の合格を達成できるよう、主担任・副担任の連携協力体制を維持・向上させる。
- ・令和4年度から運用している新カリキュラムに関する評価・改善を継続する。
- ・授業を進めていくにあたっては、学生にとって指導の目的や主旨が分かりやすいことを重視し多方面からの工夫や改善も行いながら取り組む。
- ・学生個人を尊重した指導、学生の主体性を育む指導、学生の次の行動につながる指導を心がける。
- ・対等な目線で学生に向き合いながら、しっかりと観察し、積極的にコミュニケーションをとって効果的な指導・助言を行っていく。
- ・授業評価の結果等を参考にしながら、自己の授業を振り返り、質的向上を図る。

- ・臨床研修への積極的な参加により専門性を一層向上させる。
 - ・オンラインセミナーを活用した積極的な研修参加により、最新情報による学びを深め、授業に活かしていく。
 - ・研究論文をまとめ看護研究発表会で発表する。
 - ・定員を満たす学生数が確保できるよう、学校の魅力を積極的かつ細やかにPRしていく。
 - ・卒業生（就職1年目）のフォローアップを行う。
- ② さらに、教員毎の目標設定に加えて、年間教育方針を踏まえた次のような目標設定や計画策定を行い、学校運営全般にわたって適切に対応できる仕組みとして運用しています。
- ア) カリキュラムの内容や教育面で重視する視点などを反映させた「学年毎の取組目標」の設定
- イ) 実習調整、教育課程、入試対策、教育物品の管理、図書管理、健康管理など、教員が業務分野毎に編成している「係」等による「目的・役割毎の取組目標」の設定や計画策定
- ③ これらの目標や計画の達成結果については、年度末に、関係教員による評価を行ったうえで、教員会議の場で全教員により最終評価を行うという二段階評価を実施し、様々な改善活動や翌年度の目標設定・計画策定につなげているところであり、令和6年度は、年度当初に設定した目標や活動計画について、概ね達成することができました。
- ④ なお、これまでの目標は、定性的なものが多く、第三者による評価など客観的な評価になじみにくい一面もあることから、数値目標の設定によって、そうした面を補完することし、初年度となる令和6年度は、計18項目の目標を設定し、その進行管理と達成結果の評価を行いました。
- 令和6年度の計18項目の数値目標の内容と実績等は、「別表2」のとおりであり、達成できたもの（達成率100%）が14項目、概ね達成できたもの（達成率80%以上）が3項目、あまり達成できなかったもの（達成率60%以上）が1項目という結果でした。
- (2) 教育課程及びシラバス（授業計画）の妥当性
- ① 令和6年度は、全学年が令和4年度からスタートした新カリキュラムによる教育を円滑に進めるとともに、シラバスについては、国家試験の出題基準に見合ったものになっているか、授業内容と整合しているかなど、様々な視点により整理し、学生の意見・反応を踏まえた見直しも行いながら策定、運用しました。
- (3) 授業内容・指導方法の評価と工夫
- ① 授業内容や指導方法については、学生に対するアンケートや教員相互の授業批評（本校での呼称：授業研究）など、効果的で充実した教育を進めるための取組みを行いました。
- ② 学生アンケートでは、教育活動等に関する満足度合いを4段階評価で確認し、さらに、良かった点や不足している点などを自由記述式で詳細に確認しました。
- このアンケート結果は、専任教員だけでなく、外部講師や実習指導者とも共有しながら、今後の教育の参考として活用しています。

- ③ コロナ禍の期間に休止し令和5年度から再スタートさせた、1年生と2年生の「協働学習」の取組みとして、1・2年生混合のグループで2日間にわたって「グループ学習」、「学習内容のまとめ」、「発表」、「振り返り」を行う授業を実施し、2年生のリーダーシップの育成と1年生の協調性の向上を図りました。（令和6年度は解剖生理から疾患・看護につながる学習に焦点を当てて実施）
- ④ 1年生を対象に医療や看護に関連する施設及び事業所等を訪問し学びを得る目的で実施している「施設見学」については、令和6年度は神戸市の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」を見学先として、学生が「大規模地震（阪神・淡路大震災）の当時の被災の様子等を把握し、防災・減災対策の内容やその重要性を学ぶ機会をつくりました。
- ⑤ さらに、学習意欲と看護師をめざすモチベーションの向上等を図るため、本校卒業生5名による看護師としての経験談の特別講義「ようこそ先輩」（2年生対象）を実施しました。
- ⑥ また、全国看護学生作文コンクール実行委員会が主催し、厚生労働省、(公社)日本看護協会、(一社)日本看護学校協議会等が後援している「全国看護学生作文コンクール」に2年生の全学生が「私と看護」をテーマとする作文を応募しました。この作文の応募は、本校学生の看護師をめざす意識を高める本校の取組みとして位置づけており、毎年度実施しています。

(4) 実習における学習環境や指導体制の妥当性及びインシデントの把握と原因分析

- ① 実習については、実習先の指導者（実習指導者）と教員が十分に意思疎通し、共通の視点で学生に対応できるよう、臨床指導者会議への参加、実習指導者への学生意見等の情報提供、教員間の定期的な情報交換を行うとともに、実習時に生じたインシデントの把握・分析や再発防止策の検討を進めました。
- ② インシデントの再発防止策の検討結果については、シミュレーション演習や技術練習など校内での学生指導にも反映させるなど、学生の能力向上につなげることができました。

Ⅲ 入学・卒業対策（評点：2.9）前年度評点：2.8

(1) 入学生の確保

- ① 少子化の進展など厳しい環境の中で本校の定員35名（1学年）の入学生を確保できるよう、取組みの充実を図りました。

- （具体的な取組み）
- ア) 学校訪問の充実・・・令和5年度 21校 ⇨ 令和6年度 26校
- イ) 進学相談会、進学ガイダンスへの参加機会の拡大
・・・令和5年度（4～12月）8回 ⇨ 令和6年度（4～12月）12回
- ウ) オープンキャンパス（7～8月に2回開催）の内容の充実
- ・参加者の看護技術体験内容の充実
（追加した体験：白衣試着、注射・沐浴・老年看護・ベッドメイキング）
 - ・在学生によるPR動画の映写

エ) 高校2年生を対象としたオープンキャンパスの実施(3月)
オ) 学校説明会(高等学校進路指導担当教諭対象)の内容の充実 ・説明会の中で「参加教諭と在学生(教諭所属校の卒業生)の懇談会」を実施
カ) 学校広報の強化(学校PRポスター・チラシの作成、SNSの充実)

これらの取組みの充実を図った結果、令和6年度の受験者数・入学者数は42名・27名と、前年度の数(39名・23名)を若干ではありますが上回る結果となりました。

(2) 中途退学の防止対策

① 中途退学者を一人でも少なくしていくことや、そのための対策の実施について、教務主任の年間行動目標の1つとして位置づけて取り組みました。具体的には、各学生の学校生活全般をメンタル面も含めて教育的視点で観察し、教員が必要なタイミングできめ細やかに関わっていくこと、学力の低い学生に学習方法の指導・助言を行うこと、必要となる場合にはスクールカウンセラーのアドバイスも得ながら対処していくことなどに取り組みました。

② こうした取組みにもかかわらず、令和6年度の退学者数は6名と、令和5年度の7名から減少したものの、大きな改善効果が出ていない結果となりました。

令和7年度は、学生が看護師になることに対するモチベーションを高められる新たな取組みを進めるなど、工夫を凝らしながら対応していきたいと考えています。

(3) 看護師国家試験対策と成果

① 1年次からの国家試験対策の実施と受験者全員合格を教務主任の年間行動目標の1つとして位置づけるとともに、「国家試験対策 年間実施計画」を策定し、学年毎の学習計画や対策授業、外部講師を活用した講義、複数の実施主体による模擬試験等をスケジューリングし、継続的に対策を講じました。

② また、3年生3名程度に1名の専任教員を割り当て(国家試験担当教員制)、全教員により学生一人ひとりの学習の進み具合に応じて国家試験対策を効率的・計画的に実施しました。

③ これらの対策の結果、令和6年度は2年連続となる受験者全員(100%)合格を達成することができました。

(4) 卒業生の進路選択への対応及び卒業後のフォローアップ

① 令和6年度卒業生の就職については、希望する医療機関等の配属先を考えるうえで必要なことや、履歴書の記載に当たり留意すべきことなどの助言も行い、卒業生31名全員の就職に結びつけることができました。

② また、令和6年7月に「ホームカミングデー」として、就職し約4カ月経過となる時点での状況の確認、卒業生の思いや悩み等へのアドバイス及び卒業生間の親睦と情報交換を目的に、令和5年度の卒業生が本校へ集う新規の取組みを実施しました。

Ⅳ 学生生活への支援(評点:3.0) 前年度評点:3.0

(1) 心身の健康管理への支援

① 中途退学者対策の一環でもある、各学生の学校生活全般をメンタル面も含めて教育的視点で把握し、教員が必要と考えられるタイミングで関わっていくことや、スクールカウンセラーの活用、常日頃からの学生とのコミュニケーションなどにおいて、健康管理面からも必要となる指導、助言、支援を進めました。

(2) 学生の自主的な活動に対する支援

① 例年と同様に、校内の全学生で組織する「自治会」によるレクリエーションや社会貢献活動について、具体的な活動に対する助言、活動場所の提供、授業時間割上の配慮等に努めました。

② 学生が各自で行うボランティア活動等を促進するため、献血への理解を得る取組みに関する情報提供を行いました。

Ⅴ 管理運営・財政(評点:3.0) 前年度評点:3.0

(1) 適正な予算執行、予算管理

① 本校の予算執行においては、教職員が経費節減に対する十分な理解のもと日常の教育活動、事務業務、施設・設備管理を行いました。

② また、今後の収支状況の一定の改善のため、授業料、学校運営協力金及び寮費の令和6年度入学生からの増額を行うとともに、バス通学をする全学生を対象とした「通学バス運営負担金」について、在校生及び保護者の方への理解を求めたうえで、令和6年度から徴収を開始しました。

(2) 危機管理の徹底

① 毎年度実施している校内の消防・防災訓練について、令和6年度は11月に開催し、津市消防本部職員の方々の指導を得ながら全学生による消火器を用いた初期消火訓練、教員による消火栓を使用した消火訓練、大規模地震の避難訓練、県防災対策部の地震体験車での地震体験と同部職員の方の地震防災講話により、学生の防災意識が向上するよう取り組みました。

② 大規模地震や大規模な風水害に備えるため、校内の備蓄物資の点検・補充を行うとともに、緊急避難セット(水・非常食や衛生用品などが入っているリュック)を全校生徒及び全教職員が保有するよう、新入生に追加配付を行いました。

Ⅵ 施設・設備(評点:3.0) 前年度評点:3.0

(1) 施設・設備の点検とメンテナンス

① 校内の水道設備、電気設備、消防設備、浄化槽については、関係法令に基づく専門業者による定期点検及び老朽箇所・不具合の補修等により、安全性・利便性の維持を図りました。

(2) 適切な教材、図書の確保と活用

- ① 看護実習室、情報科学室、視聴覚教材室の備品・機材の点検や交換等を定期的（年2回）に実施するとともに、実習用品の交換と配置数の見直し等を行い、実習・演習が円滑に実施できる環境整備に努めました。
- ② 図書室の図書については、司書職員に加え学生図書委員（1・2年生 計8名）を選任し、円滑に貸出ができる体制を整えました。また、限られた予算のなかで計画的に図書を購入するとともに、「図書室だより」を作成・掲示し、新刊案内や貸出の多い図書、おすすめ図書の紹介などの情報提供を進めました。

VII 教職員の育成（評点：2.8）前年度評点：3.0

(1) 職場内研修の実施

- ① 職場内研修については、教員会議における教員間の意見交換が、気づきを得て各自の教育力を高めていくための研修機会でもあるととらえており、令和6年度は2～3回／月のペースで開催しました。
- ② 教員会議に加え、教員と学生間のコミュニケーション上の問題点等を事例毎に議論し、その解消方法を検討する「倫理カンファレンス」を実施するとともに、教員の授業内容を他の複数教員が確認し、教える手法や内容に関して大変良いと思われたこと、一層向上させていくべきこと、配慮や追加を行った方が良いと思われることなどを授業終了後に話し合う「授業批評（本校での取組名：授業研究）」を実施し、教員の教育力の向上及び授業内容の充実につなげました。

(2) 校外研修・臨床看護研修への参加と研究活動の実施

- ① 令和6年度の現場研修としては、医療機関や福祉施設（病院、市が運営する保健センター）において6名の教員が計6回（1回当たり1～2日）の研修を受け、研修後に校内報告会を開催して教員間で成果を共有するなど、看護の専門性の向上に努めました。
- ② 現場研修以外の校外研修については、オンラインでの受講が可能なものに参加し、全ての教員が研修を受講して各自の教育力の向上に努めました。
- ③ 教員による独自の研究活動として、「看護学生の感染予防に対する医療従事者としての意識」をテーマとした研究を実施しました。

VIII 広報（評点：3.0）前年度評点：3.0

(1) 積極的な情報提供

- ① 本校の対外的な情報提供手段としては、パンフレット等の印刷物やホームページ、Instagramによっており、令和6年度は、作成後10年が経過する学校ホームページの改修を行い、令和7年度からリニューアルのホームページを運用することとなりました。

IX 地域との連携（評点：3.0）前年度評点：2.5

(1) 地域内や学校周辺での社会貢献活動

- ① 令和6年度は、学校周辺の清掃活動を行うとともに、学生献血への理解を深めるための取組を行いました。献血は、医療人を志す本校学生に関連のあるボランティア活動であるため、県の啓発事業「ヤングミドナサポーター（啓発活動を行うボランティア）の募集」についての情報提供を行った結果、2名の学生が応募し、同サポーターとしてボランティア活動に参加しました。
- ② また、本校の全学生で組織する「自治会」により、「エコ・ワクチン by エコキャップ運動」としてペットボトルキャップをリサイクルするために回収し、その収益でポリオやBCGのワクチンを世界の子どもが接種できるように取り組む活動に参加しました。
- ③ 本校は、大半の学生がスクールバスで一斉に登下校するという通学方法によっており、学生による授業終了後の積極的な活動を促しにくい側面がありますが、学生の一体感を育みながら、自主的な活動が活発化するよう支援を行っていきます。

(別表 1)

令和6年度 本校の教育の推進に資する取組一覧

No	取 組 内 容	No	取 組 内 容
1	年間教育方針の策定と評価	24	HP、インスタグラム等による学校PR・広報
2	学年毎の取組目標の策定と評価	25	校内全学生で組織する「自治会」の活動支援と助言
3	業務担当係(入試係、実習調整係、物品管理係、図書管理係、健康管理係等)の編成及び取組目標の策定と評価	26	ヤングミドナサポーター(献血の啓発ボランティア)の促進
4	各教員の教育目標の策定と評価(三者面談を含む)	27	学生による学校周辺の清掃活動
5	年間数値目標の設定と評価	28	学生による「エコ・ワクチンbyエコキャップ運動」への参加
6	複数教員による担任制	29	学校訪問、進学相談会、進学ガイダンスへの積極的な参加による学校PR
7	教員会議(全員会議)による諸課題、改善策等の検討	30	オープンキャンパスの開催(7・8月、3月)
8	学生アンケートの実施(授業内容、指導方法等)及び改善策等の検討	31	学校説明会の開催(高等学校進路指導教諭対象)
9	授業研究(教員間の授業批評)の実施	32	倫理カンファレンスによる教員の倫理観の相互確認
10	1年生と2年生による協働学習の実施	33	教員の現場研修受講(病院、福祉施設等)
11	医療や看護に関連する施設、事業所等への「施設見学」の実施	34	教員の研究活動
12	特別講義「ようこそ先輩」の実施(本校卒業生による看護師としての経験談を語る講義)		
13	全国看護学生作文コンクール(テーマ:私と看護)への応募(2年生)		
14	スクールカウンセラーの配置		
15	国家試験総合対策(3年間の計画に基づく総合的な対策の推進)※外部講師の活用、複数の実施主体による模擬試験を含む。		
16	一部の学生に対する個別講義、個別演習の実施		
17	国家試験担当教員制(3年生3名程度に1名の教員を割り当て、各学生の学習の進み具合に応じた国家試験対策を実施)		
18	戴帽式の開催(2年生)による自覚と責任感の醸成		
19	ホームカミングデーの開催(就職1年目の卒業生のフォローアップ)		
20	消防・防災訓練(避難訓練、消火訓練、地震体験等)		
21	緊急避難セット(水・非常食・衛生用品等)の学生配付		
22	年金に関するセミナーの開催		
23	「図書室だより」等による図書情報の提供		

津看護専門学校 令和6年度 年間数値目標一覧

(別表 2)

目 標 項 目		令和6年度				前年度 実績値	備 考
		目標値	実績値	達成率 (%)	評価 区分		
グループ1:教育活動の成果に関するもの							
1	看護師国家試験合格率	100%	100%	100%	A	100%	
2	卒業生の看護職としての就職率	100%	100%	100%	A	100%	
3	卒業認定を受けた学生(3年生)の割合	100%	100%	100%	A	100%	
4	中途退学者数	5名以内	6名	83%	B	7名	
5	本校に対する卒業生の満足度	80%以上	94.4%	118%	A	—	アンケート結果 による
グループ2:具体的な教育活動に関するもの							
6	講義に関する学生の満足度(3年生)	95%	96.0%	101%	A	94.4%	アンケート結果 による
7	実習に関する学生の満足度(3年生)	95%	96.0%	101%	A	93.2%	〃
8	国家試験対策に関する学生の 満足度(3年生)	90%	94.4%	104%	A	88.3%	〃
グループ3:教員の取組・活動に関するもの							
9	研修受講者数(延べ人数)	10人	15人	150%	A	10人	
10	研究活動実施数	1件	1件	80% (発表なし)	B	1件	
11	臨床研修参加者数	5名	6名	120%	A	5名	
12	教員会議 年間開催回数	30回	32回	107%	A	31回	
グループ4:学生の行動・活動に関するもの							
13	図書の年間貸出数	250冊 以上	462冊	185%	A	242冊	
14	ヤングミドナサポーター応募者数 (1・2年生)	1名以上	2名	200%	A	2名	
グループ5:その他							
15	翌年度新入生 入学者数	35名	27名	77%	C	23名	
16	ホームページ年間アクセス数	15,000件 以上	12,298件	82%	B	R4:18,774件 R5:14,910件	
17	Instagram フォロワー数	100	167	167%	A	95	
18	オープンキャンパス参加者数	100名 以上	134名	134%	A	107名	

評価区分がA・Bの割合:94.4%(17/18)

【評価区分】 A:達成できた(100%) B:概ね達成できた(80%以上)
C:あまり達成できなかった(60%以上) D:達成できなかった(60%未満)

令和7年5月
津看護専門学校

特定医療法人 暁純会 武内病院 : 事務長、看護部長
 " 榊原温泉病院 : 事務長、看護部長